

「土佐のおきやく」で企画

「おきやく」をしながら社会貢献。客が飲食店で特定のメニューを注文すると、県内の市民活動団体に寄付されるプロジェクトが、高知市中心商店街などで3月2～10日に開かれる「土佐のおきやく」を中心に行われる。企画したNPO高知市民会議（東森歩理事長）は、今年の参加店舗を募っている。

（松田ややか）

飲んで食べて寄付を

「飲みもって 食べもって『寄付ぎふと』と銘打って2011年3月からスタート。参加する飲食店が「寄付つきメニュー」を構成、1注文につき数円から200円ほどを寄付金として集める仕組み。

初年度の8店舗（寄付金計約8万円）から徐々に輪が広がり、昨年度は27店から計約55万円が集まった。当初は「おきやく」の期間限定だったが、現在はメニューに恒常的に組み込んでいる店も。寄

NPOが参加店募集

付金額は7年間で計243万円余りになり、社会福祉活動などに取り組

中田陽子代表取締役は「地元を支えられて営業してきたので、恩

返ししたいという気持ちで始めました。従業員からも『地域に貢献できてうれしい』という声が多い」と取り組みの意義を話す。

本年度集まった寄付金は、「高知おもちゃ病院」なども食堂まある」など6団体に分配予定で、同市民会議は参加店舗を2月半ばまで募集中。東森理事長は「NPOにとって、活動資金をどう調達するかは大きな問題。飲食店と協力することで、社会的な課題の認知を広げ、活動の応援につなげたい」と話している。問い合わせは同市民会議（088・820・1540）へ。



「寄付ぎふと」の対象メニュー一例。食べたり飲んだりすることで県内の市民活動を支援する（高知市帯屋町1丁目「菊寿し 本店」）